

2025年度 事業計画

1、事業実施概要

エキスポを含めたアート販売は実地展示とネット販売を融合させたハイブリッド形式を基本とし、ICTを活用した情報発信による顧客の確保を図る。法人の理念を大切にしながら、地域に密着した福祉活動を推進し、障がい者のアートによる自立支援を行う。また、会員数の確保に繋げる。

第15回 国際チャレンジドアートエキスポインジャパン2025

開催概要（案）

開催目的：障がい者がつくる芸術品（オンリーワンアート）を世に紹介し、アートでの自立支援について考える。

テーマ：オンリーONE～ 在籍アーティストによる個展 ～

時期：2025年4月～2026年3月（予定）

主催：特定非営利活動法人サポートセンターどリーむ

共催：島根県商工会議所連合会、一般社団法人新極美術協会、わんぱくデザイン研究所

協賛：一般財団法人ごうぎん財団、山陰パナソニック(株)

特別協賛：出雲大社

場所：実地での展示及びインターネットを通じた販売で開催

在籍アーティストの作品一人一人の個展を年間を通しインターネット上で実施

展示：国内&国外 20ヵ国 島根県、鳥取県、神奈川県、兵庫県、東京都、オランダなど
凸版印刷、障がい者アート協会

どリーむに通うアーティスト一人一人の個展をネット上で紹介、絵画、陶器、工芸品等
計700点

協賛出展：ごうぎんチャレンジドまつえ

1) 本部事業

法人の理念を尊重し、地域に根ざした福祉活動を展開していきたい。また、障がいの有無に関わらず、個々の個性を活かせる環境を整え、魅力ある法人に繋がるよう努めていきたい。JASCAP（障がい者アートのオンラインショップ）やわんぱくデザイン研究所の運営を通して障がい者アートの可能性を拡げアートでの自立、会員数の確保に繋げていきたい。

2) わんぱく学園事業

少子化傾向に伴い、障がい児童の参加者が著しく減少したことから今年度から活動を休止、今後の社会傾向と照らし合わせながら事業の再開を目指す。

3) 就労継続支援B型事業（わんぱく大使館）

アートでのご縁を大切に、地域や関係企業と連携しながらアートの二次利用を含めた販路拡大に結び付けたい。

ハーブ事業をはじめ、受注先への配慮に感謝しながら事業に取り組む。

SNSやWebサイトを活用し、活動の魅力を発信。また、地域連携の一環として地域行事への参加予定。

職員に資格研修などの専門的な研修に参加してもらうことで、一人一人が質の良い支援を提供できるよう施設内外研修に取り組む。

ICTを使い職員の事務負担軽減にも繋げる

災害や感染症発生時でも継続した運営を行えるよう、業務継続計画（BCP）を活かし事業に取り組む。

4) 相談支援事業

様々な社会資源を活かしながら個々のニーズに応じた支援が提供できるよう、相談支援専門員の質の向上を目標に、資格取得研修やOJTを含めた人材育成に取り組む。

5) 共同生活支援事業（わんぱくハウス）

施設利用者が地域住民の方々に温かく見守られ地域で安心して生活を送ることができるよう地域連携推進会議を設置、利用者が地域で安心して生活できる環境を整備する。

職員の人財育成を推進し、資格研修などの専門的な研修を実施。質の高い支援を提供し、施設の魅力を高めていく。

6) その他、新たな商品開発やアイデアの創出を推進しながら、ビジネスの活性化を目指す。

2、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部運営	通年	36名	220
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催 WEB	第15回国際チャレンジド アートエキスポ R7年11月 (実地での展示、9名 WEBでの開催)	絵画、陶芸製作者 24名 24名	170
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 22名	34,347
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 3名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 9名	3,748
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年末年始以外 わんぱくハウス 4名	わんぱくハウス 利用者 6名	6,458
わんぱく学園 事業	実施しない。			
合 計	44,943			

(2) その他の事業 今年度は実施しない。